

令和7年度琴海文化センター 講座実践報告

1. はじめに

(1) 琴海地区について

琴海地区は、平成18年1月4日に琴海町から長崎市へ編入した地区であり、市の北部に位置する。地区の面積は70平方キロメートルほどと広く、地区を国道206号が貫いている。令和2年の国勢調査では、地区内の人口は11488人であるが、65歳以上の高齢者は4213人(全人口の37%)となっている。今後も高齢化が進むことが予想されており、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると2040年には、65歳以上の高齢者の割合は50%を超えると予測されている。

(2) 琴海文化センターについて

琴海文化センターは、旧琴海町時代の1990年に町教育委員会事務局と町民の文化的教養の向上や社会教育の振興を図るための施設として設けられた。同じ建物には、長崎市社会福祉協議会琴海支所が併設されている。施設の東側は大村湾に面しており大村湾県立公園に指定されている美しい海岸線を眺めることができる。施設は、以下に示すようになっている。

館内施設	面積	定員	設備
多目的ホール	331平米	406	ステージ(12×6.3)音響・照明設備
1階第1会議室	46平米	16	円卓7、椅子16
2階第2会議室	127平米	80	長机25、椅子89、黒板、スクリーン
2階第3会議室			
2階研修室(和)	58平米	40	座卓15



特に多目的ホールは、電動ロールバック座席と空調設備が整っている。

(3) 講座について

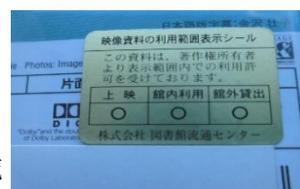
前述したように、琴海地区は広いため講座を地区中央に位置する琴海文化センター、人口が多い地区南部の琴海南部文化センター、地区北部の琴海さざなみ会館で開催している。どの施設も駐車場のスペースは確保できているが、公共交通機関(バス)については、琴海南部文化センターを除けば、講座時間帯の最寄りバス停は1時間に1本程度のバス通過頻度となっている。そのため、主たる講座会場は、琴海文化センターとしながらも講座の内容や対象者を意識して会場を振り分けている。

2. 令和7年度の工夫と改善

(1) 琴文映画会について (施設等の強みを生かした取り組み)

琴海文化センターの多目的ホールを活用しての映画会は、他の公民館にはない魅力があると考えたが、参加者が少ない状況であった。令和6年度は、長崎市立図書館から借用したDVDを使用しての名作映画会を開催していたが、高齢の方からは、字幕の洋画よりも邦画がよいとの感想もあった。

そこで、琴海文化センター内の図書室にある貸出用DVDを使用した上映会の実施を考えた。図書館のDVDには、(株)図書館流通センターの映像資料の利用範囲表示シールが貼付しており、上映に○が付せられている作品から選定した。令和6年度は、月曜日の午前中(10時から12時)で実施していた。今年度は水曜日の午後(1時30分～15時30分)として、4月以



利用範囲表示シール

外は最初の週に設定した。回数も「春の講座」「秋の講座」各4回に増やした。また、名作として広く認知されていない作品もあるため、名称を「名作映画会」から「琴文映画会」に変更した。最初の上映会を4月16日(水)に話題作である「そして父になる」(カンヌ国際映画祭審査員賞受賞作品 是枝裕和監督 主演福山雅治)で開催した。年度初めで広報が足りなかったのか上映会参加者は19名にとどまったが、40～65歳未満の女性11名が参加するなど今までとは違う状況であった。参加者の感想の一部を以下に紹介する。

- ・見たかった作品を無料で、しかも近場で見ることができで大満足です。とても魅力的なイベントなので今後も参加させていただきたいです。ありがとうございました。
(40～65 未満 女性)
- ・映画館に行きそびれて、観られてなかったのが、近場で観られてよかったです。
(40～65 未満 女性)
- ・昔、観たのですが、また、涙が出ました。
(65 歳以上 女性)

「春の講座」で成果を得たため、「秋の講座」でも図書館にある貸出用DVDを使用することとした。また、上映作品の開催時期を広く了知されている週間(旬間)等と関連付けた。例えば、読書週間(10月27日～11月9日)の期間には「天使のいる図書館」を、人権週間(12月4日～12月10日)直前には、「アルジャーノンに花束を」を上映した。「春の講座」の課題として、思ったよりもリピーターが増えなかったことから、「秋の講座」では、小さなカードに上映会参加のお礼と次回予告を記して、会場出口で手渡しした。その効果もあるのか分からないが、「春の講座」では2回連続以上の参加者は7名であったが、「秋の講座」では20名に増えた。

令和6年度との令和7年度の比較について以下に示す。前年度の67人から163人に参加者が増えた。(平均11.2人→20.4人)

本日は「琴文映画会」にご来場ありがとうございました。

今回の映画は「**天使のいる図書館**」です。
 日時 11月5日(水) 午後1時30分～
 場所 琴海文化センター大ホール
 監督 ウエダアツシ
 主演 小芝風花
 主な共演者
 横浜流星(本年度NHK大河ドラマ主演)
 香川京子 森本レオ 内場勝則

読書週間(10/27～11/9)に合わせて作品を選びました。
 一人の新人司書(小芝風花)の成長を描いた心温まる作品です。
 ご来場をお待ちしています。

配付したカード

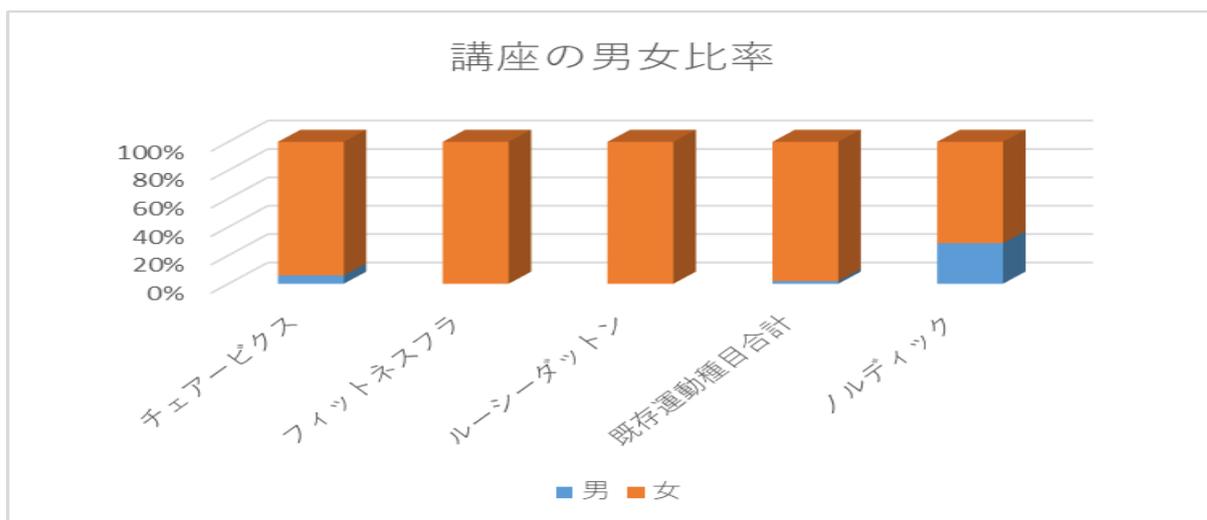
令和6年度					令和7年度				
開催期日	曜	時間帯	作品名	参加者数	開催期日	曜	時間帯	作品名	参加者数
4月15日	月	午前	バルカン超特急	12	4月16日	水	午後	そして父になる	19
5月13日	月	午前	グレンミラー物語	10	5月7日	水	午後	命のビザ	12
6月10日	月	午前	ナイアガラ	14	6月4日	水	午後	おいしい給食	19
					7月2日	水	午後	深夜食堂	32
					9月3日	水	午後	こはく	26
10月21日	月	午前	黄色いリボン	6	10月1日	水	午後	ぼくたちの交換日記	22
11月18日	月	午前	踊る大紐育	9	11月5日	水	午後	天使のいる図書館	19
12月16日	月	午前	逢びき	16	12月3日	水	午後	アルジャーノンに花束を	14

令和6年度と令和7年度の映画会比較表

(2) 運動講座について（参加者の拡大を図った取り組み）

「春の講座」では、前年度からの引き続きで「ルーシーダットン」（タイ式ヨガ）、「フィットネスフラ&ストレッチ」（フラダンスの要素を取り入れたエアロビクス）を継続し、「バレトン」（バレエの要素を取り入れたエクササイズ）を高年齢者向きに「チェアビクス」（椅子を利用した健康体操）に変更した。また、熱中症予防から実施時期を4～5月で、3回連続講座として設定した。高齢者の健康寿命を考えての運動講座であるが、男性の受講者が少なかった。そこで、「秋の講座」からは、男性の参加しやすい運動種目として、「ノルディックウォーキング教室」を新設した。

「秋の講座」の運動種目の参加状況を下図に示す。



「春の講座」から引き続き実施した3つの講座(既存運動種目)では、更に男性の参加が減少した。一方、新設した「ノルディックウォーキング教室」では、全体の3割が男性であり、今後も男性の参加が期待できると感じた。あわせて、琴海文化センターは、琴海中部グラウンドに隣接し、琴海中央公園も近いため、屋外でのウォーキング練習において自動車等をあまり意識しないで、楽しく安全に練習できる環境にあるのも強みである。

(3) 情報機器講座について（魅力ある講座内容への変更の取り組み）

琴海文化センターには、講座用のノートパソコンが10台ある。このパソコンを使った講座を「パソコン教室」として実施している。「春の講座」までは、基本的なパソコン操作体験や一般的によく使われている「Word」や「Excel」について学ぶ講座にしていたが、受講希望者が少なくなってきた。そこで、現在話題になっている「生成 AI」などの体験の講座に切り替えた。

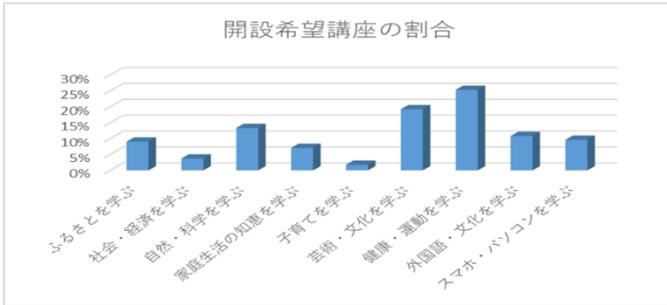
「生成 AI」の講座では、講師から「生成 AI」の入門的な使い方と注意点について学んだ後に、「Microsoft Copilot」を活用して会話や文書作成等の体験をした。

「ブロック型プログラミング」の講座では、小学校のプログラミング教育に活用され始めている「Scratch」を活用して、キャラクターの動作制御指示や音楽作成などの体験をした。「Scratch」はおもにマウスを操作する「ビジュアルプログラミング言語」を使用しており、タイピングに不慣れであっても簡単に操作できた。そのため、高齢者でも、最新の技術を体験しているという満足感と達成感を得ていた。受講者の満足度は2つの講座ともに100%であった。

(4) 地域講師の活用について (地域人材活用の取り組み)

琴海文化センター主催講座では、講座最終回に講座アンケートを行っている。この講座アンケートで受講者のニーズを確認している。

令和6年度のアンケート結果では、「6 以下は講座の大まかな内容です。興味・関心の高いものや受講してみたいものがあればお選びください。」(複数回答可)の項目について、以下のような結果であった。



実施したアンケートの結果から「ふるさとについて学ぶ」についての希望がある程度あることが分かった。

そこで、琴海地区内に住む方で、琴海地区の歴史等について詳しい方を探していたところ、琴海地区に住む、行政職員から40代の女性の方を紹介いただいた。この方は、地元西海町に在住し、長崎歴史文化観光検定の1級を所持者で、長崎さるくガイドを務められている方であった。連絡を取ったところ講師として快諾をいただき、「秋の講座」から「琴海の足跡を見つけよう」という新講座で講師を務めていただいた。講座実施後のアンケートでの満足度も高く、好評であった。受講者の感想の一部を以下に紹介する。

- ・琴海に長く住んでいても、何も知らずに暮らしていたと思う。琴海の歴史が少しでもわかりよかったです。ありがとうございました。(65歳以上 女性)
- ・琴海に住んでいても初めて見聞きすることばかりで、おもしろかったです。(40～65未満 女性)

小学生を受講対象にした「夏休み子ども講座」では、昨年度、琴海地区に家族で移住されたスラックラインのプロライダーの方に本年度から講師をお願いした。講師の方は全日本クラスの大会で、優勝するなどトップレベルの実績を持っている。「スラックライン体験教室」では、器具を持参いただきセッティングしてもらったうえで、1年生から6年生までの年齢や技量の差にも配慮しながらいねいにご指導いただいた。プロの指導ということで保護者の関心も高く、他の講座よりも見学者が多く、子どもたちの講座終了後に体験を申し出る保護者の方も見られた。子どもたちの達成感や満足度も高かった。受講者の感想の一部を以下に紹介する。

- ・さいしょは歩くこともできなかつたけど、さいごはしゃがむことができてうれしかったです。(3年生)
- ・できなかつたことができてたのしかったです。(1年生)

令和7年度 琴海文化センター 講座アンケート

本日は、講座にご参加いただきありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、ご意見・ご感想をお聞かせください。(設問1～4と6は、**該当するものに○**を付けてください。)

- 1 年齢をお答えください。
① 18歳未満() ② 18歳～40歳未満() ③ 40歳～65歳未満() ④ 65歳以上()
- 2 今回の講座を、何でお知りになりましたか。(複数回答可)
① 文化センターのチラシ() ② こずもすだより() ③ 長崎市のチラシ()
④ 防災無線・防災メール() ⑤ インターネット情報() ⑥ 文化センターから聞いた()
⑦ 知人から聞いた() ⑧ その他()
- 3 講座は満足できましたか。
① 満足() ② だいたい満足() ③ やや不満() ④ 不満() ⑤ どちらでもない()
- 4 次回も参加したいですか。
① 参加したい() ② できれば参加したい() ③ あまり参加したくない()
④ 参加したくない() ⑤ わからない()
- 5 本講座について、感想や要望などがあれば自由にご記入ください。
- 6 以下は講座の大まかな内容です。興味・関心の高いものや受講してみたいものがあればお選びください。(複数回答可)
① ふるさとを学ぶ() ② 社会や経済を学ぶ() ③ 自然や科学を学ぶ()
④ 家庭生活の知恵を学ぶ() ⑤ 子育てを学ぶ() ⑥ 芸術や文化を学ぶ()
⑦ 健康や運動を学ぶ() ⑧ 外国語や外国文化を学ぶ() ⑨ スマホやパソコンを学ぶ()
※ 新設してほしい講座で、具体的なものがあればご記入ください。

※ ご協力ありがとうございました。

3. 今後の課題

(1) 琴文映画会について

琴海文化センターの強みとして、電動ロールバック座席と空調の完備した大ホールと同じ施設内の図書館に所蔵 DVD がある。このことから、琴文映画会の開催に令和7年度は力を入れてきた。その結果、参加者を増加させることができた。令和8年度は、より参加者を増やすために、この琴文映画会の広報について力を入れていきたい。一方で図書館所蔵 DVD の館内上映権付の作品の数が限られており、令和7年度の方法を維持するためには、年を重ねるほどにその対応が課題となると考えている。

(2) 運動講座について

令和6年度の講座後のアンケート分析や今後の地域の状況から、高齢者の健康の保持・増進のために無理なく実施できる運動講座を開講するとともに、男性の参加が少なくなっているという現状を踏まえて、令和7年度の講座づくりの工夫を行うことが課題になっていた。そこで「秋の講座」で男性でも参加しやすい「ノルディックウォーキング教室」を新設した。この講座では男性の参加が約3割であった。一方で他の運動種目では、ほぼ男性の参加者がいなくなってしまうている。令和8年度においても、男性の運動講座への参加を増やすための工夫が必要と考えている。

(3) 情報機器講座について

本年度の秋の講座から「パソコン教室」については、これまでの実用的な内容から、新たな学びの体験を中心に据えた内容に切り替えたところ、受講希望者も多く、その満足度も高くなった。一方で、「スマホ教室」は、社会貢献事業として企業が無料講師を派遣する際の毎回最小遂行人数の10人を集めることに苦労している。デジタル社会の急速な進展の中、高齢者のデジタルデバイドの解消の取組は必須となっている。高齢者の受講意欲を高め、受講者を増やしていく取組をどのように講じていくかが大きな課題である。

(4) 地域講師の活用について

本年度は、成人講座と青少年講座(夏休み子ども講座)で新たな講師をお願いすることができた。地域講師の活用は、1単位2時間の講座時間以外でも学びの広がりが期待できるため、今後も講師の発掘のために情報をしっかり集められるようにしたい。そのような中で、青少年講座(夏休み子ども講座)については、学校教育との関係をしっかりと考え、新たな学びや体験を重視して設定することが大切と考える。

(5) その他

講座後のアンケート「2 今回の講座を、何でお知りになりましたか。」で「⑤ インターネット情報」との回答が「春の講座」と「秋の講座」で大きな差が見られた。(春 11.0%→秋 17.5%)これは、長崎市のホームページのリニューアル以降は、ウェブ上の申し込みは電子申請システムのみとなったため、その対応が「春の講座」では遅れたためと考える。講座担当者が電子申請システム操作のための権限を取得し、電子申請ができるようにして、作成した「秋の講座」では、数値が回復し、その効果を感じた。チラシや広報誌等の紙媒体からインターネットを活用した広報活動への移行が重要であり、その充実をどのようにしていくかが今後も課題になるものと考えている。